

旅団部隊スキー指導官集合訓練



よなば

第623号
令和7年3月発行
電子版第80号

「地域と共に」



スキー徽章授与



第13旅団司令部幕僚長 1等陸佐 牧瀬 孝之
部隊スキー指導者集合訓練視察



背囊を背負い総合滑降（認定試験）



スキー機動（認定試験）



吹雪の中でスケータリング（認定試験）



シューテムターン（認定試験）

冬魂！冬季技術のプロフェッショナルへ 部隊スキー指導官へ

第八普通科連隊（連隊長 一等陸佐 中尾 圭介）は、一月初旬から二月下旬までの間、だいでんホワイトリゾートスキー場及び日光演習場において、令和六年度旅団部隊スキー指導官（養成）集合教育を実施した。自衛隊スキーのプロフェッショナルとも言える部隊スキー指導官は、積雪寒冷地を行動する部隊の冬季幕僚としての十分な知識及び技能を有することが求められる。このため科目試験ではスキー技術指導法のみならず、積雪寒冷地における作戦全般及び遭難者救出法等も含まれる。また、実技試験においては傾斜地、平地移動する技術のみでなく、20kgの背囊を携行した機動能力も認定試験を行い、合格者は

二月十九日に実施された認定試験においては、これまでの成果を十分に発揮し、被教育者2名が合格し、新たに部隊スキー指導官に認定された。見事合格し、認定された指導官らの新たな飛躍に期待したい。【部隊スキー指導官に認定された隊員】
本管中隊 二曹 田邊 一
第一中隊 三曹 水野麻奈人

部隊スキー指導官学生 所感文

スキー指導官に認定されて

第一中隊 水野三曹



私は今回が四度目の教育挑戦でした。この四年間を振り返ると本当に沢山の経験をさせていただき、知識や技術だけでなく自分自身が成長できている貴重な期間だったと思います。今までは学ば側でしたが、今後はスキー指導官に認定され指導官として育成する側の立場で部隊に貢献できるように精一杯頑張りたいと思います。スキー指導官の養成教育では、スキー技術だけでなく、冬季における戦闘行動、

スキー指導官への道

本部管理中隊 田邊二曹



私は、今回令和六年度旅団集合教育「部隊スキー指導官（養成）」に参加し、指導官として認定して頂くことができました。今年で三度目の挑戦で自分自身が何を目指し何になろうとしているのか、常に考え意識した教育となりました。指導官を目指すきっかけとなったのは、現在所属している狙撃班としての冬季における戦闘のイメージがつかずいたため、そこへの知識を深めたいと思うようになったためです。



実践を意識して知識を深める中で更に冬季における厳しさを知り、突き詰める重要性を感じるとともに我々が置かれる立場と位置付けを身に染みて感じるようになりました。

教育では、冬季の特性で直面する環境や状況の変化を体感し、その一つの目標として認定してもらおうというのを掲げて、知識だけでなくスキー技術の難しさや必要性を感じ、更にそれらを探索したいと思うようになりました。私は、認定して頂くまでに三年かかりましたが様々な経験と知識を吸収することができました。きついこともあればワクワクすることもあり、今思うと全てが新鮮で有り難いことばかりで感謝しかありません。

私が全力で教育に集中させてもらえたのも、送り出してくれた中隊の方々や班のみんな、そしてそれを支えてくれた家族のおかげだと思っています。

今後についても、認定されたとはいえまだまだ未熟であり更に知識や技能を研鑽し、引き続き精進したいと思います。



いま、その一歩を踏み出すとき

JAPAN PRIDE

自衛官募集

詳しくは自衛隊鳥取地方協力本部まで

TEL: 0857-23-2251 または 鳥取PCO 検索

未来の自衛官の懸け橋に！

二月二十一日米子駐屯地において、鳥取・島根県の入隊予定者に対し、地方協力本部が企画するフォロー広報の日を支援した。

入隊予定者には、駐屯地概要説明から始まり、米子駐屯地で行われているラッパ教育の訓練見学、施設研修、体験喫食及び隊員との懇談を行った。

施設研修においては、米子駐屯地に所在する第十三後方支援隊の整備工場や入隊後に教育隊で実際に使用する居室等を見学していただいた。

その後、体験喫食において米子駐屯地の隊員と同じ食事を喫食した。現役自衛官との懇談では、昨年の春に入隊した隊員も懇談に参加しており、当時入隊した時の心境や自衛隊に入隊して良かったことや休日での過ごし方などの質問に答えた。また、入隊予定者の質問にもわかりやすく、丁寧に答え入隊予定者の不安を軽減することができた。

米子駐屯地広報室は、自衛隊地方協力本部と共に未来の自衛官の懸け橋になるように広報活動を行っていく。



ラッパ教育研修



DS工場研修



体験喫食



隊員との懇談

献血は命を救う！ 献血に協力

米子駐屯地は、一月二十二日赤十字血液センターが実施する献血に協力した。

献血とは、病気や手術などでのために健康な人自らの血液を提供するボランティア活動である。献血が必要とされる理由は、医療技術は進歩しているものの、血液は人工的に造れず、長期保存ができないためである。

米子駐屯地は、日頃からこの活動に参加しており、お昼から課業終了までの限られた献血時間の中で駐屯地所在隊員らは、勤務時間外等を利用し積極的に献血に参加しており、献血に貢



献血前の問診



献血に協力する隊員

献した隊員からは、「駐屯地に献血車が来ると積極的に参加させていたいです。少しでも社会貢献活動に協力していきたい人も多く人の助けになると嬉しい」との声が聞かれた。

米子駐屯地は、一人でも多くの人々を助けるためこれからも献血活動に参加していく。

米子駐屯地における給食の魅力化！

米子駐屯地業務隊（山根木二佐）は、駐屯地の生活勤務環境の改善魅力化として日々新たな取り組みを行っている。

その中で管理栄養士補佐技官を主体として糧食班は三つのことに力を入れている。①使用食材の質の向上 ②隊員ニーズに基づき献立改革（新メニュー開発） ③五大栄養素（ビタミン・ミネラル及び摂取エネルギー）等の栄養管理である。糧食班は、仕事を頑張っている隊員に満足感のある食事をとってもらい、駐屯地ビジョン「また来たい米子駐屯地」に寄与している。

三月の食堂メニューはとてもスペシャルな献立となっており、三月十日には十種類のケーキ食べ放題（スイーツパラダイス）が行われ、食事をしている隊員からは自然と笑顔が溢れ出し、食事を楽しくしている姿が見られた。その他にも新米子駐屯地名物「475（よなご）丼」や具沢山の紅かじなど地元産品を活用した季節のメニューを提供している。

また、令和六年度に行われたダイニング甲子園最終選考で米子駐屯地からは、約十五センチの特大大サイズ・150gの鶏のむね肉を使用し米粉を使うことでよりサクッとヘルシーに仕上げたメニューを試行錯誤しながら考案しエントリーした。一次予選は突破したものの入賞には届かなかったが、その後隊員から意見等を積極的に取り入れ業務隊長及び栄養担当者は日々隊員食堂に向き、喫食する隊員の生の声を参考にメニューの改善・開発を行っている。

駐屯地広報室が主として対応する部隊見学に訪れ食事をされた方々も満足し、笑顔で食事を楽しんでいただいています。

また、駐屯地業務隊は食堂メニューだけでなく、駐屯地の生活勤務環境改善にも力を入れており、一月には営内全居室に冷蔵庫を導入するなど営内者が快適に過ごせるよう改善された。その他にも隊舎居室の個室化など隊員の生活・勤務環境をよりよくするために整備を進めている。



475（よなご）丼
（牛スジ煮込み、トンカツ、からあげ）

スイーツパラダイス

ダイニング甲子園エントリー『チキンタツタ』

駐屯地業務隊は、今後もおいしい食事を提供し続け、隊員の生活・勤務環境をよりよくしていく。駐屯地所在部隊を支えていく。

《 隊 員 紹 介 》 広報室臨時勤務



▲廣瀬士長が作成した速報版

臨時勤務の様子▶



廣瀬 大椰

広報勤務を経験して

米子駐屯地広報室は、日々隊員の訓練や活動等を撮影しその様子を駐屯地速報版にすると、SNS等を活用して部外へ発信する等、募集広報に努め駐屯地のPR及び隊員の士気高揚を図っている。また、部隊見学、中高生を対象とした職場体験、山陰地方の新入社員等に対する生活体験などさまざまな部外対応を行っている。

更に、広報室は年間を通じて、中隊から若い隊員の経験の場として臨時勤務者を配置し撮影・編集を

私は十二月一日から約一カ月の期間、駐屯地広報室の臨時勤務を経験させていただきました。

私の広報室のイメージは、演習や野営に参加し写真を撮るイメージしかなかったのですが、実際に勤務してみると広報室の仕事の多さに驚きました。撮影以外にも部外対応、SNSの投稿、掲示板作成、動画の制作、ポスター、新聞の制作等あげるとキリがないほど様々な仕事をさせてもらいました。私は、勤務する中で写真撮影の難しさを知り、高校の写真部で活動していた同級生に連絡し自分なりに工夫しながら勤務をしました。また、広報室の皆さんは何も分からない私に優しく丁寧に教えていただき、すぐに広報室の雰囲気になれました。

その中でも私が特に印象に残ったのが掲示板作成でした。連隊本部隊舎入り口の掲示板作成も広報の仕事ということ勤務するまで知りませんでした。掲示板作成をしてみたら、パソコン操作からおぼつかなく最初についた掲示板は、加工もせずただ写真と文字だけを入れた寂しいものでした。しかし、掲示板は見る人に興味を持ってもらう必要があると感じたため、私自身上達しよう



穂田 拓海

広報臨時勤務を経験して

一月七日から約一カ月間、広報室で臨時勤務をしました。普段は三中隊の小銃小隊で勤務をしており、広報室での勤務は初めてでした。

私の広報のイメージは、写真を撮る仕事というイメージがありましたが、そんな事はなく、撮った写真を編集して印刷し、掲示板に載せたり、動画作成、SNS投稿、駐屯地見学の対応など、他にも沢山のお仕事をされていました。

私は主にスキーの写真撮影を行いました。米子駐屯地では積雪寒冷地部隊に指定されており、冬になると、だいたいホワイトトリートや演習場でスキー訓練が始まります。一般的なスキー板と自衛隊のスキー板では用途が違い、一般用では楽しさ、デザインが重視されていますが、自衛隊は頑丈さや機性能が重視されています。雪中での移動



▲穂田士長が作成した速報版

臨時勤務の様子▶



救助活動、戦闘訓練などを目的として使用されるため、日々のスキー訓練は欠かせません。

私もスキー訓練を兼ねて写真撮影に同行しました。私は昨年、初めてスキーを経験し、初めはなかなか滑る事ができず、転倒してばかりでしたが、諦めずによく練習をし、指導官にアドバイスをもらった結果、かなり上達し滑れるようになりました。それから一年が経ちましたが、今も滑る感覚は残っており、昨年より上達したと感じています。ですが、今回はカメラを持つてのスキーで、「カメラを壊さないように」と、少し緊張しながら撮影でしたが、緊張していたのは最初だけで、その後は楽しく撮影できました。

他にもいろんな撮影をしました。特に印象に残っているのは各職種の方々の撮影でした。米子駐屯地にはさまざまな職種がありますが、私は普通科なので他職種の方々が何をしているのか知る機会がありませんでした。ですが今回、広報の臨時勤務を通して他職種の方たちの仕事内容を見学させていただいたり、お話をさせていただいたり、いろんな事を学ぶ事ができました。どの職場もわきあいあいとして仕事をされており、撮影をしてる私まで楽しくなり、たくさん写真を撮りました。

撮影以外にもさまざまな仕事をさせてもらいました。短い間でしたが広報でしかできない貴重な体験をたくさんさせていただきました。

私が広報室で体験した事を同期や後輩、これから入隊される方にもぜひ体験していただき広報室のやりがいを感じてほしいと思います。

私はこの広報室での経験を活かして部隊でもっと活躍していきたいと思っています。

先輩隊員からも信頼される隊員であり、広報室の臨時勤務では、訓練風景の撮影を主として行い、連隊が実施している各種試験や検定などさまざまな現場に進出し撮影を行った。また、撮影した写真を編集する技術も非常に高く、隊員や駐屯地を訪れた来賓等も足を止めて見ていただいた。

今後も廣瀬士長と穂田士長は、広報室で学んだ経験を活かして仕事の幅を広げさまざまな分野で活躍をしていく。

十二月九日(月)鳥取県隊友会会長・山本洋は、米子駐屯地で駐屯地修繕委員会に対して説明会を行った。主な説明内容は次のとおりである。

①隊友会活動への理解・協力に対する感謝(隊友会専用掲示板の設置、引越見積支援サービスのパフ配製、令和六年三月上旬の中隊先任上級曹長等への説明機会の付与等)

②隊友会会務拡大施策への協力に関する陸幕連達の紹介

③鳥取県隊友会のあゆみ・特に全国的にも例のない緊急事態等への取組みを紹介

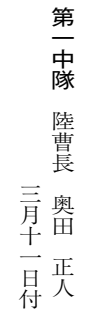
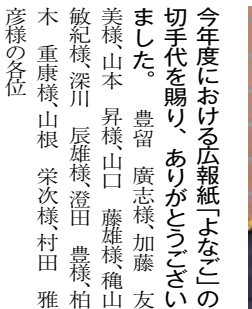
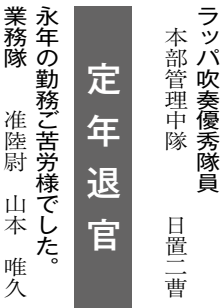
④主な活動の状況(隊友会活動の基礎である会員相互の融和親睦活動のほか、鳥取県隊友会の特色ある活動を重点に事業の四本柱に沿って説明)

⑤まとめとして、隊友会が目指すのは「国民と自衛隊とのかけ橋」であることを強調するとともに高齢会員の善行表彰(人命救助)や部隊・隊員を応援するOBの熱い思い等を紹介し、「縁」と「絆」を大切に活動していることを強調

当日は阿部司令以下三千名が集まり、山本会長の熱弁に圧倒されながらもじつと聞き入っていた。今回の説明会で、現職隊員の隊友会活動の理解が深まり、今後の会務拡大につながる手ごたえを感じた次第である。

(文責：鳥取県隊友会事務局 菅原浩二)

米子駐屯地で隊友会説明(鳥取県隊友会)



栄光・表彰

ラッパ吹奏優秀隊員 日置二曹 本部管理中隊

定年退官

永年の勤務ご苦労様でした。

業務隊 准陸尉 山本 唯久 一月二十六日付

業務隊 一等陸尉 小湊 寛 三月十二日付

業務隊 准陸尉 松本 直貴 二月十一日付

第一中隊 陸曹長 奥田 正人 三月十一日付

説明する山本洋会長

早いもので、もう年度末の三月です。桃の節句も過ぎ、いよいよ春の到来ですね。ご自身の異動・転勤や、ご家族の卒業など新生活が始まる方が多いかと存じます。

私はこの季節になると、自衛隊に入隊した時のことをよく思い出します。私は高校卒業後、自衛隊に入隊するため滋賀県にある大津駐屯地に入隊しました。新幹線で移動する際、家族・友達がお見送りしてくれ新幹線の中で涙を流したことを今でも覚えています。十八歳で家族と離れて暮らす不安、集団生活に馴染めなかなど沢山の不安や緊張を抱え大津駐屯地に到着しました。

着隊して数日は班員と馴染めずいましたが、同い年の子が多くすぐに集団生活に馴染むことができました。楽しいこと、辛いことを共に過ごしてきた同期だからこそ、それぞれの部隊に移動するときは涙を流し、「また会おうね」と約束しました。

自衛隊に入隊して七年が経ち、その中でたくさんの教育に参加させていただき、全国各地に同期がいます。長期の訓練などに参加すると、新隊員の時の同期や各種教育で知り合った同期に再会し、とても嬉しくなります。

これまでたくさんの出会いや別れを経験してきましたが、北は北海道、南は沖縄までたくさんの仲間に出会うことができ、私自身も成長することができました。

新しい状況は、ストレスがかかりやすい一方で、新しい自分や人との出会いがあり自分自身が成長できるチャンスです！

あまり恐れすぎることなく新しいドアを開けていってください！

